第３章　環境像と環境目標・施策の方向

１　めざすべき環境像

めざすべき環境像は、日光市がこれからどのような環境をめざして計画を進めていくのかを示す長期的な目標です。

本計画は、第１次日光市環境基本計画の環境像を継承しつつ、日光市のかけがえのない自然と特色のある各地域において、人々が多彩にふれあい、楽しみ、そして育んでいくことにより、新たな環境文化を創出し、持続可能な社会を実現することをめざしています。

そのため、本計画がめざすべき環境像として「**多彩な環境交流を楽しみ、育む　持続可能な都市（まち）・日光**」を定めます。

第２次日光市総合計画がめざす都市像を環境面から実現するためは、この環境像を長期的な目標として、人々が、日光に愛着（誇りと自信）をもち、安全・安心に暮らすことができ、快適で住みよく、また健やかで人に優しいまちづくりを進める必要があります。

良好な生活環境を確保し、私たちが主体となって具体的に取り組むために「自然と共生する　環境にやさしいまちづくり」を計画目標として定め、多彩な施策を展開していきます。

めざすべき環境像

多彩な環境交流を楽しみ、育む　持続可能な都市（まち）・日光

計画目標

自然と共生する　環境にやさしいまちづくり

2　環境への市民の思い～環境を楽しみ・育み・つなぐ行動～

本計画の策定に当たり、市民・小中学生及び事業者に環境意識調査を行い、地域環境に対する思い、環境の保全等に対する考えや取り組み状況などについてお伺いしました。これらのご意見を計画の策定や推進に反映するものとします。

環境意識調査

・調査時期：平成 30 年（２０１８年）10 月
・調査対象：市内に居住する 18 歳以上の市民２，０００人
　　市内の小中学校に通う小学５年生と中学２年生全員
　　市内で事業活動を行っている事業所 205 社
・回 収 率：市民 35%、小中学生 96%、事業者 56%

（1）環境への市民の思い

日光市の環境として大切にし、保全や管理・活用していきたいものとしては、市民・小中学生・事業者とも、優れた自然環境、豊かな水資源や河川・渓谷などの水辺環境など、自然環境に関する項目が上位になっています。

身近な環境では、喫煙問題のほかに、ポイ捨てやごみの散乱、水辺の汚れなど環境美化をはじめ、森林や里山の荒廃、異常気象や自然災害への関心が高くなっています。

（2）環境の保全等への市民の取り組み

地球温暖化防止やごみの減量化・資源化などに向けては、日常生活や事業活動での環境負荷の低減が重要です。日常生活や事業活動における省資源・省エネへの関心は高く、ごみの分別やポイ捨て防止、節電対策など、身近で容易に取り組める行動については、普及が進んでいます。

再生可能エネルギーの活用としては、太陽光発電は普及が見られますが、その他の再生可能エネルギーも含めて、今後の導入については分からないとするなど課題も多く見られます。

市や地域で行う環境保全活動への参加は、さまざまな活動にいつも参加している市民は少ないものの、自分ができる活動や事業に関連する活動には参加している市民や事業者が比較的多く、環境保全活動への参加意識や関心は高いといえます。

（1）日光の環境への市民の思い（環境意識調査結果などの概要）

市民の思い・取り組み　小中学生の思い・取り組み　事業者の思い・取り組み

大切にしたい環境（市民･事業者）

日光市の環境で、とくに大切にしていきたいものとして、市民は、
❶自然公園などの優れた自然環境
❷水源地や地下水など豊かでおいしい水資源
❸河川や河川敷、渓谷などの自然や風景
をあげています。

事業者も同じで、事業活動に関連して魅力に感じる日光市の環境としてあげています。

関心のある身近な環境問題（市民）

住まい周辺での環境問題として、
❶ポイ捨てや散乱
❷極端な気象現象の多発
❸森林や里山の荒廃
❹鳥獣被害
などをあげています。

関心のある環境問題（事業者）

事業活動に関連し関心のある環境問題として、
❶異常気象･自然災害
❷ごみの減量化や産業廃棄物
❸水質汚濁や土壌・地下水汚染
❹気温上昇による環境変化
などをあげています。

優先して取り組んでほしいこと（市民）

環境の保全等に向けて今後優先すべき取り組みとして、
❶水のきれいさの維持
❷不法投棄・ポイ捨て防止
❸空気のきれいさの維持
❹森林の保全と管理・利用
などの順となっています。

日光の生きものについて（小中学生）

日光市に生息する多様な生きものについて、小中学生とも
❶日光にいる生きものを、たくさん見てみたい、知りたい
❷いろいろな生きものがすんでいる自然を守る活動をしてみたい
と考えています。

どんな環境のまちであったら（小中学生）

小学生の多くは、住んでいるまちが
❶山や湖・池、滝や川、森林など、季節ごとのきれいな景色があるまち
❷空気がきれいなまち
❸みんなが、ごみを正しく出し、道などにごみがちらかっていないきれいなまち
❹川の水がきれいなまち
であったらよいと思っています。

中学生も同じ内容が上位を占めましたが、❷❹❶❸の順位となっています。

身近な環境で気になっていること（小中学生）

家や学校のまわりで気になっていることは、小中学生とも
❶ポイ捨てされたごみ
❷川や池の水のよごれ
❸いやなにおい
が高くなっています。なお、「歩きながらタバコを吸っている人がいる」は、小学生では２位で、中学生では５位となっています。

優先して取り組んでほしいこと（事業者）

環境の保全等に向けて今後優先すべき取り組みとして、
❶水のきれいさの維持
❷歴史的･文化的環境の保全
❸森林の保全と管理・利用
❹自然に親しめる環境の充実
などの順となっています。

（2）環境の保全等への市民の取り組み（環境意識調査結果などの概要）

いつも行っている取り組み（市民）

エネルギーや水を大切に使うための取り組みとして、

❶見ていないテレビや使用していない照明を消す
❷水道水を流しっぱなしにしない
などを心がけています。

❶電気・ガソリンなどの消費状況をチェックする
❷雨水を有効に利用する
などが低くなっています。

ごみの減量化・資源化のための取り組みとして、

❶リサイクル可能なものは資源回収に出している
❷生ごみは水分を絞って出す
などを心がけています。

❶生ごみやせん定枝の堆肥化
❷環境に配慮した商品の購入
などが低くなっています。

環境美化活動に関わる取り組みとして、

❶決められたごみの分別の実施
❷ポイ捨てしない
❸家のまわりの美化や清掃
などを心がけています。

❶エコショップを利用する
などが低くなっています。

環境保全への取り組み（小中学生）

小中学生とも取り組みが高い項目として、

❶外でごみを捨てないで、持ち帰る
❷人がいない部屋の照明や見ていないテレビの電気は消している
などをあげています。ポイ捨て防止や節電などへの意識が高くなっています。

小中学生とも取り組みが低い項目として、

❶自然観察会や自然とのふれあい学習への参加
❷自然のものを調べたり、観察したり、集めている
❸スーパーなどでレジ袋をもらわない
などをあげています。

環境保全対策などへの取り組み（事業者）

エネルギーの有効利用として、

❶ＬＥＤ*など高効率照明器具の導入
などがあげられています。

❶省エネ型業務用機器の導入
❷クリーンエネルギー自動車の導入
などの取り組みは低いですが、今後導入したいが高くなっています。

太陽光発電など再生可能エネルギーの導入も低いですが、今後導入するかわからないが大半を占めています。

地球温暖化対策の取り組みとして、

❶節電の徹底
❷クールビズ・ウォームビズ*
などがあげられています。

廃棄物の減量・資源化対策として、

❶ペーパーレス化
❷廃棄物の分別と資源化
❸販売や飲食、建設、製造などに伴う廃棄物の減量
などがあげられています。

有害化学物質対策は、業種などで異なりますが、
❶取り組んでいない（事業に該当しない）
が大半を占めています。

環境保全活動に対する考え（市民）

市や地域が行う環境保全活動への参加については、

❶自分ができる活動には参加している
❷参加していないが、検討している
などが高く、全体として関心があります。また、若い年代ほど「参加していないが、検討している」の割合が高くなっています。

環境保全活動に対する考え（事業者）

市や地域が行う環境保全活動への参加については、
❶今後、参加や活動を検討している
❷わからない
がそれぞれ３割以上となっています。また、３割近くの事業者は、「業務に密接に関連する活動には参加している」としています。

3　分野別環境目標と取り組みの方向

環境目標は、本計画が目指す環境像「多彩な環境交流を楽しみ、育む　持続可能な都市・日光」を実現するために、環境を具体的に取り組む５つの領域に分け、それぞれの分野に目標を定めたものです。

この分野別の目標を設定するにあたり、市民等の環境意識調査の結果を反映していますので、地域環境に対する様々な思いを含めて、方向性として示したものになります。

環境目標１　安全・安心な生活環境の確保

安全で安心して暮らせる快適な環境の確保に向けて

きれいな水やきれいな空気からなり、災害や環境汚染のない安全で健康な環境の確保は、私たちが安心して快適に暮らし、また、まちづくりや産業の振興、生物多様性や自然環境を保全する上で、共通する基盤的環境です。

そのため、私たちが大切にしていきたいとしている水資源や水環境の保全をはじめ、生活排水や騒音・振動、悪臭などの都市・生活型公害や産業公害を防ぎます。また、原子力発電所事故による放射性物質を監視し、気候変動や化学物質による人の健康や暮らし、生態系への影響を未然に防止するものとします。

そして、私たちが、住み慣れた地域において、健康で、安全で安心して暮らせる快適なまちづくりを進め、滞在者が快適に過ごせる良好な環境の提供に努めます。

環境目標２　自然共生社会の構築

かけがえのない自然を楽しみ・育み・つなぐ社会に向けて

私たちのまち日光市は、世界に誇れる自然環境や歴史文化遺産に加え、連続する森林地帯と四季の変化が育む多様な水や森林、生態系*、生物などの豊かな環境資源や良好で優れた景観に恵まれており、私たちの暮らしや産業、伝統や文化を支えています。

こうした環境をより良好な状態で未来に引き継いでいくため、自然環境や生物多様性が果たしている役割などを学び、健全な水循環や豊かな森林、生物多様性の保全など、かけがえのない自然とのふれあいを楽しみ・育み・つないでいくことにより、自然と共生するまちづくりを進めます。

環境目標３　資源循環型社会の構築

環境への負荷の少ない資源循環型社会に向けて

私たちの暮らしを支える大量消費・大量廃棄型の社会は、廃棄物の増大をはじめ、マイクロプラスチックによる海洋汚染などのように、人の健康や生態系にもさまざまな影響をもたらしています。また、食品ロス問題や廃棄物処理経費の増大など、持続可能な社会の実現に向けて、私たちが解決しなければならない重要な課題となっています。

そのため、私たちは廃棄物の発生や処理についての理解を深め、その発生抑制と資源としての再使用・再生利用など、３Ｒ（リデュース、リユース、リサイクル）を推進し、環境に負荷の少ない資源循環型社会を構築する必要があります。また、環境に配慮した廃棄物処理、不法投棄やポイ捨ての防止、環境美化など、清潔で快適なまちづくりを進めます。そのことにより、滞在者にも清潔で心地よい環境の提供につながるものとなります。

環境目標４　低炭素社会の構築

エネルギーを有効活用する環境にやさしい社会に向けて

深刻化する地球温暖化は、世界共通の重要な環境問題です。私たち人間が排出する温室効果ガスを削減し、地球平均気温の上昇を抑えることが喫緊の課題となっています。また、気候変動による影響に適応するための取り組みを早急に進める必要があります。

このため、温室効果ガス排出の抑制に向け、私たちの日常生活や事業活動における省エネルギーの推進、太陽光発電や中小水力発電などの再生可能エネルギーの活用、効率的なエネルギー利用が進められるまちづくりを進めます。また、二酸化炭素の吸収源となる森林の保全や育成などに取り組みます。

あわせて、市民・事業者・滞在者・市の各主体が資源・エネルギーを有効活用する環境配慮を進め、地球環境に貢献する環境にやさしいまちづくりをめざします。

環境目標５　環境学習・環境交流の推進

環境に学び、楽しみ・育み・つなぐ多彩な交流づくりに向けて

安全で安心して暮らせる快適な環境を確保し、自然からの豊かな恵みを楽しみ・育み・つなぐ環境負荷の少ないまちづくりを進めるためには、私たちは、日光市や地球の環境について、学び・知り、考え・行動することが、私たちの責務であり、役割です。

日光市には優れた自然環境や歴史文化、水資源をはじめ、農山村の風景や暮らしの知恵、地域の特色を活かした観光や産業など、多彩な資源に恵まれています。こうした環境資源を活かし、幅広い地域・人々との環境交流や協働による環境保全が育まれるまちづくりを進めます。

また、市民・事業者・滞在者・市が相互に連携・協力しあい、学校や地域などのさまざまな場で、環境学習や自然とのふれあいを深め、相互理解や多彩な環境交流がはかれる社会の実現をめざします。

コラム

■ ３Ｒ（スリーアール）

３Ｒとは、次の①②③の頭文字“Ｒ”を意味します。

３Ｒ活動とは、この３つの“Ｒ”に取り組むことで、ごみの減量化・資源化を進め、循環型社会をつくる全国共通の活動です。

①リデュース（Reduce、発生抑制）
　　生産や消費を抑えてごみを減らす。

②リユース　（Reuse、再使用）
　　製品を繰り返し使用する。

③リサイクル（Recycle、再生利用）
　　一度使って廃棄物となったものを加工して再生利用する。

ごみの減量化は、①→②→③の順で取り組むことが効果的です。

３Ｒキャンペーンマーク
（３Ｒ推進協議会）

限りある資源を未来につなぐ。
今、僕らにできること。

環境省 Web サイト「循環型社会のライフスタイル」のロゴ

4　環境施策の体系　この計画で進める取り組みの全体の姿

本計画では、今日的な環境課題や日光市の環境特性・環境資源などを踏まえ、次の５つの分野別環境目標の実現に向け、環境の保全等に係る施策を、関連計画や関係部署と連携し、総合的・計画的に推進します。

【めざすべき環境像】多彩な環境交流を楽しみ、育む　持続可能な都市・日光

【計画目標】自然と共生する　環境にやさしいまちづくり

分野別環境目標	施策
1　安全･安心な生活環境の確保 安全で安心して暮らせる快適な環境の確保に向けて **【共通・基盤的施策※】** （安全・安心が確保される社会）	1　水質汚濁の防止 2　快適な生活環境の実現 3　安全・安心な暮らしの確保 4　気候変動の影響に対する適応の推進
2　自然共生社会の構築 かけがえのない自然を楽しみ・育み・つなぐ社会に向けて （自然共生社会）	1　優れた自然環境や自然景観の継承 2　恵み豊かな水資源・水辺の保全 3　環境を支える森林・里地里山*の保全と活用 4　自然との多彩なふれあいづくり
3　資源循環型社会の構築 環境への負荷の少ない資源循環型社会に向けて （資源循環型社会）	1　ごみ減量化・資源化の推進（3R の推進） 2　ごみの適正処理（分別・資源回収など）の推進 3　廃棄物処理施設の適切な整備と運営管理 4　不法投棄の防止・環境美化活動の推進
4　低炭素社会の構築 エネルギーを有効活用する環境にやさしい社会に向けて （低炭素社会）	1　環境にやさしい暮らしや事業活動の促進 2　環境負荷の少ないまちづくりの推進 3　地域環境と調和した再生可能エネルギー活用の推進 4　地球温暖化防止対策の推進
5　環境学習･環境交流の推進 環境に学び、楽しみ・育み・つなぐ多彩な交流づくりに向けて **【共通・基盤的施策※】** （協働社会）	1　環境学習や自然とのふれあい・体験を支える人材・団体の育成 2　環境教育・環境学習の充実 3　環境保全活動・環境交流の推進 4　環境情報の共有化と発信、情報交流の推進

※「共通・基盤的施策」は、自然共生社会、資源循環型社会、低炭素社会の実現に向けて、その基盤として各分野にまたがり環境目標を実現する上で共通する環境施策をいいます。

また、環境の保全等に係る取り組みのうち、本計画の計画期間である令和 11 年度（2029 年度）を目安に、市民・事業者・滞在者と市が協働により、総合的・重点的に進める取り組みを戦略的重点取り組みとして定め、積極的に推進するものとします。

施策の主な内容

共通・基盤的施策１　安全・安心・生活環境

- 河川･湖沼･地下水の水質保全、生活排水処理対策の推進、事業所の水質保全対策の推進
- 大気環境の保全ときれいな星空の確保、騒音･振動･悪臭対策の推進、監視･観測･指導の推進ほか
- 化学物質による環境リスク*の低減、屋外喫煙の防止、野生鳥獣被害対策の推進、放射性物質による汚染の監視
- 気候変動に伴う影響と適応対策の検討

戦略的重点取り組みの推進

重点１　自然との多彩なふれあいを楽しむ
自然共生社会に向けて

- 奥日光の湿原や日光国立公園などの優れた自然環境や自然景観の保護･保全と活用による継承
- 源流域や湧水など多様な水辺環境･水資源の保全と活用、水のある風景百選などの取り組みの活用
- 森林資源や里地里山の環境保全機能の保全･育成･活用、森林資源の循環利用の推進
- 自然とふれあえる環境の整備、良好な生態系・生物多様性の保全

重点２　みんなで3Rを進める
資源循環型社会に向けて

- ３Rの推進、エコショップなど環境にやさしい事業活動の促進、食品ロス*対策の推進ほか
- 分別徹底と収集体制充実、資源物回収団体などの活動支援、災害時廃棄物対策の推進ほか
- 廃棄物処理施設などの適切な整備と運営管理、廃棄物のエネルギー資源としての活用
- 不法投棄･ポイ捨て防止の推進、環境美化･清掃活動の推進、空き家･空き地の環境保全の推進

重点３　日光市全体のCO_2を減らす
低炭素社会に向けて
地球温暖化対策の推進

- COOL CHOICE の普及啓発、エコライフ*の促進、環境に配慮した観光･産業活動の促進
- 環境にやさしい交通･自動車利用の推進、コンパクトなまちづくり*の推進、吸収源対策の推進
- 再生可能エネルギーの適正利用、蓄電池活用などエネルギーの有効利用、分散型エネルギーの整備
- 市域からの温室効果ガス排出削減の推進、市の事務事業による温室効果ガス排出削減の推進ほか

共通・基盤的施策２　環境学習・環境交流

- 自然とのふれあいを支える人材（指導者やガイド）・団体の育成、活動機会の充実
- 環境教育・環境学習の推進と支援、こどもの自然とのふれあいの促進、食育*の推進
- 地域･市民団体などの環境保全活動の推進と支援、市民･滞在者の環境行動の推進や環境保全活動への参加促進
- 環境情報の共有化と発信、市民・滞在者からの環境情報の提供のしくみ整備

参考：持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）との関わりについて

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals;ＳＤＧｓ）は、経済・社会・環境の３つのバランスが取れた社会をめざすための世界共通の行動目標であり、平成 27 年（2015 年）９月に国連総会で採択された「持続可能なアジェンダ」に掲げられたものです。

ＳＤＧｓには、令和 12 年（2030 年）までに持続可能な社会を実現するために達成すべき 17 のゴール（目標）と 169 のターゲット（達成基準）を掲げています。17 のゴールは世界中で取り組むべき課題の解決をめざしています。そのため、すべての人々がＳＤＧｓを理解し、それぞれの立場で主体的に行動することが求められています。

17 のゴールは相互に関係しており、複数の課題を統合的に解決することをめざす、１つの行動によって複数の側面における利益を生み出すマルチベネフィットをめざすという特徴を持っています。

こうした動向を踏まえ、本計画においても、各環境目標や取り組みの方向と特に関連性が深いＳＤＧｓのゴールを示し、重点的に取り組みを進め、関連する計画指標（計画目安）を達成することで、ＳＤＧｓが掲げる持続可能な社会の実現をめざします。

出典：ＳＤＧｓのロゴ・アイコンは、国際連合広報センターより
「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）活用ガイド」環境省、他より

本計画がめざす５つの環境目標と特に関連性が深いと考えられるＳＤＧｓの目標（例）

安全・安心な生活環境の確保	6 安全な水とトイレを世界中に 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を	目標　６　安全な水とトイレを世界中に 目標 11　住み続けられるまちづくりを 目標 13　気候変動に具体的な対策を
自然共生社会の構築	13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう	目標 13　気候変動に具体的な対策を 目標 15　陸の豊かさも守ろう
資源循環型社会の構築	12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう	目標 12　つくる責任つかう責任 目標 15　陸の豊かさも守ろう
低炭素社会の構築	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を	目標　７　エネルギーをみんなに そしてクリーンに 目標 11　住み続けられるまちづくりを 目標 13　気候変動に具体的な対策を
環境学習・環境交流の推進	4 質の高い教育をみんなに 17 パートナーシップで目標を達成しよう	目標　４　質の高い教育をみんなに 目標 17　パートナーシップで目標を達成しよう

各分野共通

8 働きがいも経済成長も

目標　８
働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

目標　９
産業と技術革新の基盤をつくろう